

辛亥革命から100年の今年、中国と台湾では多数の記念行事が開催された。熊本学園大外国語学部准教授の大澤武司さん(38)＝熊本市＝は「中国も台湾も『自分たちこそは革命の後継者』という位置付けで、この100周年を祝っている。孫文の三民主義(民族・民権・民生)の思想を実現できているのは、どちらだろうか」と問い掛ける。

大澤さんは1982年から88年まで、父親の仕事の関係で、国民党が支配する台湾で暮らした経験を持つ。小学3年から中学2年までの多感な時期に、台湾の日本人学校で教育を受けた。

「三民主義の思想をたたえた国歌を斉唱して、『蒋介石万歳、孫文万歳』で育ちました。毛沢東、周恩来ら中国共産党は『匪賊』と教わってきた」といつ「日本に帰って、国際的に認められているのは中華人民共和国(中国)の方だと知り、カル

チャーショックを受けました」

「二つの中国」の問題の発端は、孫文の時代にさかのぼる。辛亥革命後、国民党を率いる孫文は軍閥と戦うために中国共産党と連携したが、孫文の死後、後継者の蒋介石は共産党との連携、決裂を

繰り返して、内戦で敗北。共産党が49年に中華人民共和国を建国すると、国民党政権は台湾に移った。

71年、国連は中華人民共和国が「中国」を代表する政権であると承認、表面化。これが台湾のタ

「国際的に孤立したことで、民主化しなれない」という強いモ

「現在、日本以上に自由あふれる地域になっていると思う」と言っ

「一方の中国はどうか。一方の中国はどうか。一方の中国はどうか。一方の中国はどうか。」

「反日感情が高まっていることを実感する」という。「8月に中国東北部、

出が可能になり、変化が現れている」と見る。

「黨員や役人たちの不正がネットで暴かれるようになり、民衆が役人を監視するような状況が出てきた。社会主義の下での民主化が生まれていくのか。ネットが一つのきっかけになる可能性はある」

「反日感情が高まっていることを実感する」という。「8月に中国東北部、

「反日感情が高まっていることを実感する」という。「8月に中国東北部、

夢の軌跡 滔天

インタビュー編 ⑧

熊本学園大外国語学部准教授 大澤 武司さん



◇おおさわ・たけし 1973年東京都生まれ。中央大大学院法学研究科博士課程修了。博士(政治学)。2008年に熊本学園大外国語学部講師、10年より現職。専門は近現代日中関係史。

「三民主義」は実現されているのだろうか

中国・辛亥革命100年 第2部

10月に北京を訪ねた際、日本人に対して上から見下ろすような視線を感じた。「小日本」という、日本人をべっ視した言葉を何度も聞いた」と話す。その背景として「経済格差の問題など国民の不満のはけ口が、日本に向けられていたのではない」と。 (中村美弥子) 次回9日掲載



孫文は、中国共産党やソ連の援助で軍官学校もつくり、写真はその黄埔軍官学校の跡地＝中国広州市